

日本三大稲荷千代保(おちょぼ)稲荷/木曾三川公園センター/長良川河口見学・記録

平成 30 年 3 月 5 日(坂根記)

参加者 児玉、万井、坂根、日景、上條、後藤、前野（実施責任者） 計 7 人

3 月 1 日青春切符使用しての見学会に参加の皆さま有難うございました。

1. 午前中は大阪・京都班 2 組で京都で合流、新快速で米原着、乗換大垣着、駅前レンタカー 7 人乗りをレンタルして出発、岐阜海津市千代保稲荷神社参拝、門前町買い物と（なまず）料理の昼食でした。午後は木曾三川公園センター見学、長良川河口堰を見学しました。

木曾三川とは、木曾川・長良川・揖斐川の三つです。

2. 千代保(おちょぼ)稲荷は、京都の伏見稲荷・愛知の豊川稲荷とともに日本三大稲荷の一つとも言われています。鳥居を拝礼して入ったら稲わらに油揚げを通したお供え物とロウソクを買い、本殿に供え、お参りしました。商売繁盛、縁結び、合格祈願などにご利益があるそうです。年間 250 万人が参拝、特に正月 3 ヶ日や月末月初の月並祭、15 日は大変混雑、我々の日も月並祭の日で賑わっていました。門前町 150 店が軒を連ね、それぞれにお買い物を楽しみました。
3. 昼食は有名なやまと鯰料理店にて鯰の蒲焼珍味と鰻の柳川鍋御膳を戴きました、その後国営木曾三川公園センターを見学、高さ 65 メートルの展望タワーを持ち治水事業の歴史や木曾三川に生息する魚や鳥、昆虫、植物などを紹介する施設です、内部の「水と緑の館」は輪中特有の「水屋」と呼ばれる建物を持つ農家の紹介、季節毎に花が咲く大花壇、広大な芝生施設等を見学しました。展望台からの見晴らしは抜群です、河口に近い為に川幅も広く木曾三川はゆったりと流れています。遠くに長良川河口堰も見えて 360 度の素晴らしい眺望景観です。
4. 長良川河口堰は、三重県の長良川河口部に治水と利水目的に作られた堰です。治水や利水の観点から建設を望む声がある一方、長良川の生態系や漁業などへの悪影響が懸念され反対運動が起こり、



長年建設の是非をめぐる論争が発生しました。単なる「開発」か「環境保護」という論点をこえて、公共事業のあり方、河川管理、産業振興、保護のあり方についての問題を提起、アセス法設立の契機ともなりました。堰は河口から 5.4km の上流の地点に設置され総延長 661m、ゲートは環境に配慮して全てが二段式になっており、オーバーフロー（水をゲートの上から流す操作）アンダーフロー（ゲートの下から流す）等きめ細かな操作が可能だそうです。堰に流れてくる水量と堰下流の水位によって、平常時、洪水時、高潮時、津波時等のそれぞれの状況に応じて細かに対応します。



5. 三川源流域の概略

長良川・・・岐阜県大日岳（1709m）の山中に発し、河口の三重県桑名市において揖斐川と合流し、伊勢湾に至ります。

揖斐川・・・岐阜県と福井県の県境の冠山（1047m）冠山峠に発し数々の支川と合流しながら伊勢湾に注ぐ。流域には徳山ダム（日本最大級のダム）がある、徳山村 477 戸の民家が水没するた

めに反対運動が激化したが、事業者・水没予定者双方の粘り強い交渉の末、代替地集団移転で妥結。水量 6 億 6000 万 m³ のダムは平成 20 年に完成した。

木曾川・・・長野県木曾郡木祖村鉢盛山（2446m）の南方を水源とし岐阜県・愛知県・三重県を経て伊勢湾に注ぐ、木曾川水系の本流で一級河川

（完）

追伸

当日激写の日本原風景、現代世界遺産になりそうな建造物を得とご覧下さい



社務所境内には何も売っていません



お店でロウソクと藁に通した揚げを買い奉納



ロウソクも火をつけたら持って帰るようにと徹底した省エネ(?)対応



鯰料理 2100 円、鯉の洗付



展望タワー



タワーの周りには定番のチューリップと風車



開高健／天野礼子さん等が戦い破れた
(?)河口堰、威風堂々高さ 8.2m、延長
661m、山河敗れてもお役所残る？